

ご存じですか?

災害支援ボランティアセンターって?

災害支援ボランティアセンターとは大きな災害が発生した際に被災者のニーズと協力できるボランティアをつなぐ拠点のことです。

災害時は家屋の片づけ、災害ごみの搬出などさまざまな依頼が一齐に発生します。そこでセンターが情報を収集し、ボランティア活動で応援したい市民が活動を効率的・安全に進められるように調整する役割を担います。



豊中では過去3回開設



阪神・淡路大震災(1995年1月)

豊中市では過去3回、市社協が災害支援ボランティアセンターを立ち上げて支援活動を行いました。

1回目は阪神・淡路大震災で、2回目・3回目は同年に発生した大阪北部地震・台風21号の時です。



大阪北部地震(2018年6月)



台風21号(2018年9月)

訓練実施

阪神・淡路大震災以後、毎年1月に災害支援ボランティアセンターの開設・運営訓練を実施し、いつ起きるかわからない災害に備えています。訓練を通して、市内ボランティアグループや青年会議所、協定団体であるライオンズクラブなどとのネットワークの強化にもつながっています。また、近年はICTを活用した運営もすすめています。



QRコードでボランティア登録

2026年
1月17日
訓練の様子

人材養成

平時から災害支援ボランティアへの意識を高めるため、「災害支援ボランティア講座」を開催しています。災害時のボランティアについて学ぶ機会になると同時に、関心のある方々とのつながることを目的にLINEでオープンチャットを作成し、情報提供に努めています。



豊中市社協みんなの福祉145号 ホームページニュース

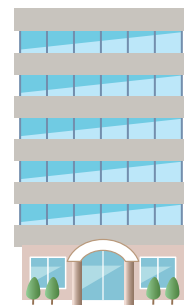
No.
22

安心して暮らし続けるために 豊中マンションサミット交流会

マンション(集合住宅)(以下、マンション)での暮らし、困りごとを抱えていませんか？

毎年定期的で開催する「豊中マンションサミット交流会」はマンションに関わる人たちが集まり、悩みや工夫を共有する交流の場です。それぞれマンションが抱える課題はさまざまです。住民同士のつながりづくり、災害時の対応、役員の担い手不足、建物の管理、高齢化などこれまでさまざまなテーマで交流を重ねてきました。

マンションサミット交流会をきっかけに、より安心して暮らしやすいマンションコミュニティづくりを一緒に考えてみませんか。ここでは最近の内容をご紹介します。



NHK プロデューサーから 見た“老いるマンション”課題

R6.3.2

交流会で過去4回連続で取り組んできたテーマであるマンションの“2つの老いの問題(住民の高齢化と建物の老朽化)”の集大成として開催しました。NHKプロデューサーとして、地域づくり課題に関する番組作りに定評のある方を講師に招き、社会的孤立や自治会の現状について、マンションに絡めてお話いただきました。

会の終盤では、始まって間もない「マンション管理計画認定制度」についての情報提供を行いました。



もしもに備える マンション防災の基本

R6.7.7

能登半島地震発災を受け改めて防災の取り組みが見直されました。豊中市は阪神・淡路大震災や大阪北部地震の被災地域であり、マンション



防災の取組も盛んに行われてきました。しかし、地域や住民同士のつながりの希薄化、マンション住民の高齢化など、従来の防災活動を維持するのも困難な状況が増え、また、従来の活動だけでは対応が難しい事態も頻発しています。多くのマンションが抱える課題を整理しながら、“社会情勢や時代に即したマンション防災とは何か”について専門家の話を伺いながら検討しました。

マンションの つながり・コミュニティづくり

R7.3.8

“つながりと防災は比例する”という前回の交流会時の専門家のアドバイスや、過去の交流会参加者アンケートでも“つながりやコミュニティを構築するためにどのようにすれば良いか”などのご意見を受け、防災に関わらず、豊中市内の先進的な取組みをしているマンションや地域の事例発表をまじえて、対策や課題を検討しました。

次回 マンション管理はコミュニティづくりから

【日 時】3月7日(土)10時～12時
【場 所】地域共生センター西館 3階大会議室
【定 員】60名(先着順)
【申 込】右記QRコードから
【問合せ】地域支援課 ☎06-6848-1279



マンションの “つながり”づくりの事例発表

R7.7.6

地域や住民同士のつながりの希薄化は全国的な課題であり、特にマンションはその構造上からも関係が希薄になりやすいといえます。一方で地域での孤立や孤独が問題視される中、「共助」と呼ばれる住民同士によるつながりづくりが求められています。日常的な孤立や孤独を解消できる仕組みづくりを、先進的な取



組みをしているマンションや地域の事例発表をふまえて対策や課題を検討しました。

令和7年
11月
22日令和7年度 豊中市社協福祉大会&
ボランティアフェスティバル

～市立文化芸術センター～

豊中のボランティア
イメージキャラクター

ボランちゃん

豊中版「命輝く未来社会のデザイン」～つながりが人を元気にし、役割が人を輝かす～



午前の福祉大会では、長年にわたり地域福祉活動に貢献されてきた個人・団体への表彰が行われ、活動への感謝と敬意が伝えられました。村木厚子さんの講演では「支えること、支えられること」をテーマに、人は誰もが支える側にも支えられる側にもなり得る存在であり“つながり”の中で生きることの大切さが語られました。

ボランティアフェスティバルでは、各団体によるブースでの体験コーナーや活動紹介、商品販売、ステージ発表など盛りだくさんの内容で、地域のつながりを実感できる一日となりました。

物品寄付者ご芳名(R7.10月～12月末) ※敬称略・順不同

善意銀行

(生活困窮者への支援、子ども・若者への支援)

久保 孔貳彦……………お菓子
 (株)ライフコーポレーション……………食品
 敷島製パン(株)大阪豊中工場……………パン
 森田 正幸……………米
 トヨタモビリティ新大阪東豊中 U-car東豊中……………米、うどん
 生活協同組合コープこうべ……………米1kg×36袋

(子ども・若者への支援)

新千里北町自治協議会子育てサークル部会 畑のある交流サロン……………大根30本
 Rising Group 合同会社……………カップ麺
 (株)平八……………食品

社協事業

(地域福祉事業)

千里介護予防センター……………食品(フードドライブ)
 上野連合自治会……………文房具一式
 MS&AD事務サービス(株)……………マジックライス77箱
 日本キリスト教団梅花教会梅花中学校・梅花高等学校……………食品(フードドライブ)
 イズミヤ・阪急オアシス(株)・関西スーパーマーケット……………食品(フードドライブ)

※その他お預かりしました食材や物品を地域福祉活動に活用させていただいております。また、現金の寄付者ご芳名につきましては、みんなの福祉第145号に掲載しております。

ご協力ありがとうございます。

